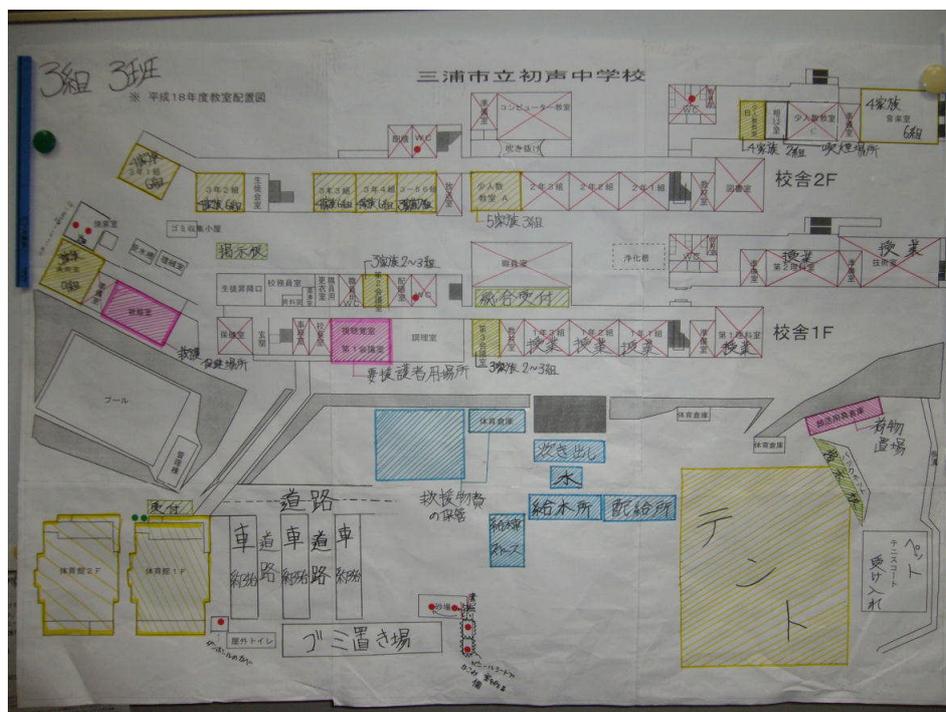


避難所学習から育む 地震に強い街づくり

～チャレンジプラン2006 報告書～



平成19年2月17日

三浦市教育委員会

1 三浦市教育委員会が提案するチャレンジプランの概要

(1) はじめに

平成17年度は、三浦市の危機管理課が所管する地域防災計画を再編成する年でした。同時に神奈川県教育委員会が「学校における地震防災活動マニュアルの作成指針」を発行しました。この二つの流れを受けて、三浦市の学校現場により合った防災計画を策定する必要性が生まれました。そして、平成17年度末（平成18年3月）三浦市学校防災計画を策定しました。こういった、防災への取り組みをベースに、平成18年度は「防災教育チャレンジプラン2006」に教育委員会として参加することになったのです。

学校が求められる安全体制づくりや安全教育の対象は、地震・暴風雨といった自然災害対策だけではなく、校内施設の安全管理、児童生徒の学校生活での安全管理（事故、いじめ問題等）や、登下校での安全管理など、沢山の側面を持っています。今回の三浦市教育委員会のチャレンジプラン参加は、その一要素である「地震」に対するアプローチであると認識しています。

今あげた「安全教育」の対象の中で、地震等の自然災害対策は、いつ来るか分からないし、めったに来ることがないだろうと、つつい油断をし、日頃の備えを怠りがちになってしまうものである点に大きな特徴があります。

教育委員会として大地震に備えた学校防災計画を策定したとしても、そのことが、各学校現場において日頃からの備えにつながっていかないと、策定したことの実質的な意味合いは無いに等しくなってしまいます。

三浦市学校防災計画を実質的に各学校の全教職員が拠り所とするマニュアルとして浸透させていくこと、また、教職員にとどまらず、児童・生徒自身が大地震に対して、日頃から準備を怠らないような意識を育てていくことが、防災計画を策定した三浦市教育委員会の新たな課題となったのです。

この課題意識を持って、三浦市教育委員会は、防災教育チャレンジプラン2006に参加することを決定しました。平成18年度を、三浦市学校防災計画を全教職員に浸透させること、及び総合的な学習の時間を活用した防災教育「避難所学習カリキュラム」の検証の年と位置づけ、チャレンジプランを展開する1年間を送りました。

2月初旬の現時点で年間スケジュールのすべてが終了したわけではありませんが、プランの多くの部分を終了し、研究集録を作成するための資料はおおかたそろいましたのでここにその報告をしたいと思えます。

(2) プランタイトル

『避難所学習から育む、地震に強い街づくり』

(3) 目的

- ①地震自体及び被災後の行動への正しい認識を持った生徒の育成
- ②優れた行動力を身につける世代の育成
- ③避難所の実質的機能の強化
- ④地域を巻き込んだ防災教育の創生（本年度は、学校防災計画の教職員への浸透）

(4) プランの概要

<主として初声中学校（カリキュラム検証協力校）での実践>

- ①初声中学校における「避難所学習カリキュラム」
 - ア、避難所に関する各グループによる調べ学習
 - イ、災害電話171体験実習
 - ウ、成果発表会（モデルプランの選定）
 - エ、外部講師による効果的な講演会の実施

<市教委が取り組む全市的な実践>

- ②成果物の印刷物としての還元
- ③学校防災プラン検討会による、学校防災計画の学校現場との綿密なすりあわせ
- ④各校担当者への防災計画の浸透、応急避難所運営委員会の実働化

(5) プランの実施時期・対象・実施場所

<初声中学校>

- ①通年 35時間位（主たる実働時期 11月以降）
- ②三浦市立初声中学校1学年 104人
- ③初声中学校

<市教育委員会>

- ①平成18年度（通年）
- ②学校防災プラン検討会委員 及び 市立学校防災担当者
- ③主として三浦市教育委員会 及び 学校防災プラン検討委員長校（三崎小学校）

(6) プラン立案過程について

平成17年度従来の防災マニュアルを大幅に変更して、三浦市学校防災計画を策定していく作業と並行して、「避難所学習カリキュラム」の研究が進められました。カリキュラムの作成に係わったのは、三浦市を題材として教材や指導案を開発することを研究している「みうら学研究会」でありました。みうら学で指導主事より提案された「避難所学習カリキュラム」は、平成17年度に当時の1学年において実施され、平成18年度の実施への手がかりを得ることが出来ました。「避難所学習カリキュラム」のコンセプトに、「先輩達が作った去年の避難所レイアウトを越す、よりよいレイアウトを作ろう」がありますが、前年度の実施でそのことを可能にしています。

①プラン立案メンバーの人数・役割

- ・学校教育課指導主事3名：立案（内担当主任1名 起案）
- ・学校教育課長、教育部長、教育長
- ・みうら学研究会教員6名、みうら学研究会外部講師2名（国立教育政策研究所総括官・市内教育実践家）：みうら学研究会は計画の検証・協議
- ・初声中学校校長1名：計画の検証、実現性の判断 計15名

②プラン立案に要した日数・時間

平成17年7月1日～平成17年12月28日 約50時間
会議3回（主としてみうら学研究会）

2 プラン立案から実践終了までのタイムスケジュール

(以下の表はチャレンジプラン 2006 最終報告のものに2月分を加筆したものです。)

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2005 11月	●プラン立案本格開始	●初声中学校学習カリキュラム原案の起案	H17. 11. 4
12月	●チャレンジプラン参加の起案	●応急避難所開設と運営マニュアル作成、危機管理課と内容確認 初声中学校避難所学習授業指導第1回目 ●危機管理課合議、教育長決裁おとり	H17. 12. 9 H17. 12. 14 H17. 12. 28
2006 1月	●学校防災計画の作成 ●チャレンジプラン選定通知	●地域防災計画とのすりあわせ 初声中学校避難所学習授業指導第2回目	H18. 1. 14 H18. 1. 31
2月	●2/18発表会資料の作成 ●2/18 発表会 ●避難所向上へのアプローチ ●学校防災計画決裁 ●避難所向上へのアプローチ	●発表資料の作成・送付 ●ガラス飛散フィルム業者への提案 ●防災計画・避難所マニュアルの決裁おとり ●食糧備蓄案の業者への提案	H18. 2. 13 H18. 2. 16 H18. 2. 17 H18. 2. 23
3月	●校長会議にて学校防災計画周知 ●県教育課題研究への推薦	●各校長への説明 ●教育事務所への報告	H18. 3 H18. 3
4月	●2006 チャレンジプラン実践計画書・資金計画書の提出 ●教育課題研究連絡協議会	●実践計画書等の作成・ ●連絡会議用計画案・予算書の作成	
5月		発表技術学習会に関する打ち合わせ2回	発表技術学習会①
6月			●国際ワークショップでの避難所学習案発表 発表技術学習会②
7月		17年度初中避難所生徒案の検証 (with 初中教員) ②	発表技術学習会③
8月		17年度初中避難所生徒案の検証 (with 初中教員) ②	
9月	●第1回学校防災プラン検討会	●講師委嘱	
10月	●第2回学校防災プラン検討会	総合的な学習の時間の詳細な打合せ	
11月	●第3回学校防災プラン検討会	避難所学習講演会打合せ	地震学習会基調提案①② 避難所学習開始③④⑥⑦⑧⑨ 避難所学習講演会 (県外講師) ⑤
12月	●第4回学校防災プラン検討会	避難所とペットのあり方講演会打合せ	ペットのあり方講演会 (県内講師) ⑩ 班内協議⑩⑬⑭⑮
2007 1月	●第5回学校防災プラン検討会 ●第6回学校防災プラン検討会	●校長会議にて冊子「学校防災計画～大地震に備えて～」について説明 避難所施設詳細な打合せ・学習会 (学年会に参加 1月15日) 学校長との作成文章の校正等 数回実施	班内意見調整・案完成・案発表準備⑯⑰⑱
2月	●第7回学校防災プラン検討会 (危機管理過程案：避難所運営委員会の持ち方について 2/13)	2/1 アンケート集計 2/8 学級発表会の結果を2/16の県外講師に報告 2/16 学年発表会の打ち合わせ ★2/17・18 ワークショップ2006発表会 ●保健安全部会 (三浦市学校防災計画～大地震に備えて～の安全担当者読み合わせ、指導主事の説明 2/23)	171 体験学習会(2/1) 学級発表会準備 学級発表会 学級代表案の再点検修正 学年発表会 個人感想、掲示物作成

3 チャレンジプランの取り組みの経過

三浦市教育委員会が展開したチャレンジプランを構造的に示すと以下のコンテンツから構成されています。ここではそのコンテンツごとの経過を簡単に紹介します。

- ・学校防災プラン検討会 の開催・提案
全教職員に三浦市学校防災計画の浸透を図る視点
- ・保健安全部会（防災担当者会） での確認
防災担当者に三浦市学校防災計画の浸透を図る視点
- ・ユネスコ国際ワークショップへの参加
「避難所学習カリキュラム」を広く発信していく視点
- ・初声中学校 でのカリキュラムの実践
「避難所学習」を検証し、意識のある若い世代を育成する視点

(1) 学校防災プラン検討会

平成18年3月の「学校防災計画」の策定を受け、本年度初めて、「防災担当者会議」を発足しましたが、会議の内容が、防災担当者では判断できない内容が多く含まれる現状がありました。「学校防災計画」において、管理職の十分な討議を受けないままの重要な課題が残っているので、この防災に係る重要な検討課題を扱うための組織が必要であろうという提案を校長会から受け、「学校防災プラン検討会」を新たに設置しました。

①組織名及び構成

- 組織名 学校防災プラン検討会
 構成 校長会より担当校長1名（三崎小学校 松尾校長）
 教頭会より担当教頭小2・中1名 計3名（松本・為谷・久野）
 市教委より担当指導主事1名 合計5名
 ※危機管理課担当職員の出席も要請。

②学校防災プラン検討会で予定する案件

- ア) 参集の原則について
 イ) 大地震時の組織について
 ウ) 避難所運営マニュアル・避難所運営委員会規約と組織図
 エ) 避難所と地区の確認について
 オ) （協議に値する条件整備が整えば、食糧備蓄案について）

③会議の目的

上記案件について様々な角度から討議を深め、原案を作成し、その原案を自主校長会にて提示し、校長会議で確認することを目的としました。

なお、原案がまとまった年度後半には、全教職員対象に発行される、「三浦市学校防災計画～大地震に備えて～」の編集作業も担当しました。

(2) 保健安全部会（防災担当者会）

(1) に示したように、6月1日に開かれた防災担当者会議は、その内容に責任を持ちきれないと言った意見が出され、差し戻しになりました。再び、同会議を開くには、平成19年2月23日の保健安全部会まで待つこととなりました。学校防災計画を全教職員に浸透させるためには、十分な時間とコンセンサスが必要でありました。

(3) ユネスコ国際ワークショップへの参加

平成17年度、カリキュラム作成時において、スマトラ沖大震災後ユネスコが世界共通教材として作成した防災教育教材の効果を検証するため、カリキュラムの導入部分に、ユネスコ教材を活用しました。ユネスコ教材と、カリキュラムの効果を報告するため、標記ワークショップに参加させていただきました。

(4) 初声中学校での取り組み

①担当学年会との打ち合わせについて

実践を実際に活動をするのは検証校である初声中学校の第1学年の教員なので、その不安を払拭するには腐心しました。実際には、チャレンジプランに応募する前に、指導主事による同授業の具体的展開を前年度に実際に見ていただき、それをふまえて実際の授業実践に入っていただくよう工夫しました。しかし、学年職員の入れ替わりで、実質的には昨年度の実践を知っていただける教職員が2名しかいない点で、先生方の実践への不安を払拭しきれませんでした。そのため、学年会との念入りな打ち合わせを昨年度以上持ち、不安の解消に努めることが肝要になりました。

②初声中学校としての研究活動

昨年度の実践をもとに本年度のチャレンジプランのモデル指定を受けましたが、本プロジェクトにあわせ、初声中学校も学校として神奈川県教育課題研究の指定を受けました。その結果、具体的実践の市教委と初声中学校の分担、及び県委託研究とチャレンジプランの区分を明確に整理することが出来たとは言い切れませんでした。

③プラン展開時期の問題と対処

初声中学校での総合的な学習の時間において、「避難所学習」に第1学年が取り組みを開始するのは10月の末からでした。そこで、5月の学年会との打ち合わせで、プレゼンの技術を身につける「発表技術学習会」を5・6・7月の3回取り組んでいただくよう学年会に要請しました。学年会はこの提案を受け、回数を若干増やして、生徒がパワーポイントを使いこなせるよう対応してくださりました。

④モデルカリキュラムの自主編成

モデルカリキュラムを提案した上で、実際の題材は、担当なされる学年会の先生方が自主的に作成されました。それぞれ自分自身が指導できるよう改変して実践されたことは、避難所学習が学校に根付く上でとても大切な取り組みだと感じました。

4 チャレンジプラン取り組みの成果

(1) 学校防災プラン検討会での成果

平成18年8月に組織された本検討会は、9月以後7回の会議を経て、以下の5点の成果を上げました。このすべての会議に危機管理課より、危機管理課長（又は主査）の参加があり、学校教育における防災計画の在り方を一緒に考えていけた点は、それ自体大きな成果といえる面があると思います。

- ①大震災時における参集の仕方のコンセンサスを確立したこと。
- ②大地震時の組織のあり方についてのコンセンサスを確立したこと。
- ③各学校で共通に使用できるような対応マニュアルを作成できたこと。
- ④冊子「三浦市学校防災計画～大地震に備えて～」を構成し、発行にこぎつけたこと。
(別添資料でご確認下さい。)
- ⑤3月～次年度1学期中に各学校で避難所運営委員会を開く道筋を確立したこと。

(2) 保健安全部会（防災担当者会）での成果

6月に初めて開催された防災担当会は、その後その役割を学校防災プラン検討会に譲ることとなりましたが、上記コンセンサスが校長会議の承認を受けたことを踏まえ、2月に、各学校の安全担当者に「三浦市学校防災計画～大地震に備えて～」を用いながら、以下の点の周知を行うことが出来ました（2/23なので原稿提出時は未実施です）。

1. 来年度の学校要覧作成に間に合う形で、以下の準備を進める。

- ①緊急対策本部の機能として、小規模校モデル「情報収集班」「学校復帰班」「渉外避難所班」のような機能が果たせるような準備を確認しておく。
- ②被災時の登下校のあり方、震災時の行動の仕方などのマニュアルが徹底していない学校があれば、本計画を参考に、十分な周知を心がける。また、今回の冊子をもとに、従来の決めごとを変更できるのであれば、今回のマニュアルをもとに再整備をはかる。
- ③大震災時においても確実に搬出できる方法で、非常持ち出し品セットを準備する。セットの中身は以下のような構成で準備する。
 - ・児童・生徒名簿（少なくとも、住所・電話番号・保護者名が分かるもの）
を少なくとも3部。（保管に注意し、年度更新も忘れずに行う。）
同情報については、FD・CD等での保管があれば有効な場面が考えられる。
 - ・引き渡しカード（不足しないようにあらかじめ印刷して保管する）
 - ・避難所情報収集カード（地域住民の数を考慮して多めに刷って保管しておく）・ラジオ、乾電池、振鈴、ハンドマイク、沢山の鉛筆・鉛筆削り・消しゴム
 - ・学校防災計画冊子
 可能であれば、以下の準備があるとさらによい。
 - ・学校配置図を模造紙大に印刷したもの等掲示物
- ④参集の原則について、その内容を全教職員で確認する。

2. 避難所運営委員会を危機管理課ともタイアップして、3月～来年度1学期をめどに各学校で開催し、混乱を防ぐための十分な協議を学校ごとに進める。

(3) ユネスコ国際ワークショップでの発表の成果

① 提出論文

国際ワークショップなので、提出論文は英文であったが、ここではその和訳を紹介する。

ユネスコ教材と防災教育

三浦市教育委員会学校教育課
指導主事 益田 孝彦

提案要旨

三浦市教育委員会は、中学校で実践する防災教育のカリキュラムを開発した。平成17年度その実効性を確認するため、三浦市立初声中学校の協力の下、総合的な学習の時間にそのカリキュラムを実践した。その際、カリキュラムの導入となる初発の授業でユネスコの教材を用いたことが、生徒の授業意欲の向上に効果的に作用したことについて報告する。

1. 日本における防災教育の実際

日本の学校教育において、防災教育を大きなテーマとして学校で取り組む場合は、総合的な学習の時間を利用することになる。総合的な学習で取り組むべきテーマは、学校側が任意に選択できるため、一般に「国際理解」「福祉」「職業学習」「環境」といったテーマが多く選択され、「防災教育」が選択されるケースはほとんど無いのが実情である。

事実、三浦市教育委員会は平成18年度の防災教育チャレンジプランに応募して、全国23のモデルプランに選定された。その際の選定理由が、「教育委員会が防災教育に取り組んだ点」であった。単独校が独自に防災に取り組む事例は少なくはないが、教育委員会が開発したカリキュラムを実践する事例は、おそらく三浦市が初めての事例と言える。

2. 「避難所学習」カリキュラムの骨子

(1) 目的:

- ①地震自体及び被災後の行動への正しい認識を持った生徒の育成
- ②優れた行動力を身につける世代の育成
- ③避難所の実質的機能の強化
- ④地域を巻き込んだ防災教育の創生

(2) 内容

- ①地震及び地震災害に対する全体学習
- ②中学校における「避難所学習カリキュラム」
 - ア、避難所に関する各グループによる調べ学習
 - イ、災害電話171体験実習
 - ウ、成果発表会（モデルプランの選定）

(3) 期待される成果:

- ①先輩の成果を引き継ぐ防災教育を継続できる。
- ②避難所のルール・基本的な考え方を身につけた、沢山の若い世代を育てることが出来る。

3. ユネスコ資料の分析

(1) 日本の生徒に対しての新規性

第4項「地震はどのくらいの頻繁に起こるのか」

第5項の他国の震度階級と絵の表現

第9項「動物が地震を予知できるか」

及びB章、C章、D章は、目新しい内容である。

(2) 資料の分量は適当か。

興味関心を維持できる分量にスリム化を図る必要があった。

(3) 資料の内容自体は充分か。

内容は充分とも考えられるが、興味関心を引き出すために若干独自資料を加えた。

(4) 活動のあり方

活動として調査するには内容が深すぎるので、今回は事前調査した結果を載せた。

(5) 資料の価値

「ユネスコがスマトラ島沖地震を契機に世界の子どもたちのために作成した資料」という設定は中学生を引きつける力が十分ある。

(6) 予想される生徒のレディネスと資料の位置づけ

テレビ等からの情報提供が盛んな日本の中学生にとって、資料の内容は、すでに知っている内容が多いと思われる。今回は、「知っている知識と違う所はないか?」「対応すべき行動で違うと思う所を指摘してみよう」という扱い方で活用を試みた。

(7) 避難所学習とユネスコ資料との接点

ユネスコ資料を用いると、全世界的に見ても日本の生徒は、地震に対しての知識を豊富に持っていることを再確認出来るはずである。ところが、地震に対する知識を豊富に持っていたとしても、避難の仕方や避難所のあり方については実は知識を持っていないことにはっきり気付く。その意味で、この作品が「避難所学習」の導入時に非常に有効に機能することが予想される。

5. 導入の成果

(1) 平成17年度の初声中学校の「避難所学習」は、生徒の高い学習意欲に最後まで支えられて、十分な成果を上げた。

(2) 中盤・終盤のカリキュラムの工夫も有効に寄与したが、導入時の動機付けが成功し、生徒のモチベーションを高めることが出来たのが最も大きな成功要因であった。

(3) ユネスコ資料の利用方法

導入時1時間目

①パワーポイントのプレゼンと、楽しく解説しながらユネスコ資料を35分ほどで読み合わせ。

②各教室に戻り、設問とユネスコ資料に対する感想を各個人が真剣に回答した。

導入時2時間目

2時間目までに全生徒の回答結果を分析し、その結果をもとにプレゼンを作成。プレゼンを通して、初声中の全体像をクリアにした。分析の結果、事前の予想通り、「①地震に対する知識は沢山持っている。②避難の仕方、避難所についての知識はほとんど持っていない。」ことが全員に認識されていった。

(4) 「避難所」に対する学習が必要なことが課題としてはっきり設定できた。

6. 生徒の回答結果例

- ①A「地震の理解について」：80%の生徒が知っていた。情報源は主にテレビ。
90%の生徒が大地震がくると予想。
- ②地震直後の行動、「机の下でよいのか?」。「パニックにならずに済むのか?」「ペットの扱い方はどうあるべきか?」に意見が集中的に出された。
- ③震度6か7の時、大きな被害は85人中 家やビルの倒壊60人 津波34人と予想。
- ④学校の避難訓練の有効性に対し支持・不支持は半々。
- ⑤避難の仕方には混乱が見られる。例)「駆けないで6人、駆けて5人」
- ⑥最も安全な所「校庭30人、高い所15人」。最も危険な所「海の近く21人(1位)」
- ⑦家が倒壊したらどこに避難する「学校34人、避難所17人」(60%)
- ⑧家が倒壊したらどこで寝泊まりするの。「分からない38人(1位)45%

7. 三浦市としての「避難所学習」の今後の展開

- (1) 平成18年度防災教育チャレンジプランの研究推進(三浦市教育委員会)
平成18年度神奈川県教育委員会教育課題研究委託研究校(初声中学校)
- (2) 上記2研究による避難所学習カリキュラムの有効性の実証
- (3) カリキュラムが他校でも受け入れやすいような全国標準モデル化の推進
平成19年度以降三浦市他中学校でも導入の検討依頼
- (4) 危機管理課と共同しての行政としての実効性を高める。

②成果

参加した様子を写真で紹介します。



実施されたのは、平成18年6月12～14日の3日間
開催された場所は、東京目黒の国立教育政策研究所でした。

三浦市教育委員会として「ユネスコ教材の日本の中学生への効用」の報告の他に、フィリピン・インドネシア・中国等のユネスコの委員に混じり、一緒になって「防災教育」がどう展開されるべきかを検討するという貴重な体験をさせていただくことが出来ました。

(4) 初声中学校での成果

初声中学校においては、実際の学習カリキュラムの実践校ということもあって、データや成果物が数多く残っています。それらを以下の順番で紹介していきます。

- ・三浦市教育委員会が提案したカリキュラム指導演
- ・県外講師による「避難所講演会」の様子とアンケート結果
- ・県内講師による「避難所とペットの在り方講演会」の様子とアンケート結果
- ・171体験学習会の様子とアンケート結果
- ・初声中学校教員が作成した学習資料の実際

①三浦市教育委員会が提案したカリキュラム指導演

平成18年度初声中学校防災教育「避難所学習」プラン

H18.8.24 三浦市教育委員会

- 1 単元名 避難所学習
- 2 教科等 総合的な学習の時間
- 3 対象学年 中学校1年
- 4 場所 初声中学校
- 5 情報源 三浦市教育委員会資料
インターネットでアクセス可能なHP
招聘講師の講演
- 6 単元目標
 - ①正しい認識を持った生徒の育成
 - ②優れた行動力を身につける世代の育成
 - ③避難所機能の強化
- 7 単元の考察（思い、意図等）
 - ・先輩の成果を踏まえたよりよいアイデア
 - ・学校内の防災計画との連動
 - ・実効性の高い価値ある避難所設計
- 8 単元構想
 - (1) 指導計画

	題材	授業の内容	指導の工夫・留意点
(1)	地震の準備と対策	・世界中の人たち用にかかれたユネスコ地震学習資料に目を通し、自分の知識と違う点を指摘させる。 (教員による基調提案) ・気付いたことを書いて提出。	・日本に住んでいることですのですでに得ている知識を強化する。 ・学習資料の不足点・疑問点をあげさせ、避難学習については進んでいないことに気付かせる。
(2)	避難所学習に何故取り組むか	・回答の紹介と問題指摘 ・阪神淡路大震災、中越地震での避難所の要点をプレゼンで紹介し、避難所学習の必要性を説く。	・前時の回答をもとに、避難の仕方、避難所でのあり方については日本的に立ち後れていることに気付かせ、学習意欲・動機付けの強化を図る。
(3)	避難所学習の	・避難所学習のスケジュール、進め方等学習の	・6人1班構成の共同研究

	取り組み方	取り組み方を周知する。	・担当を教師側でクラス割りしておく
(4)	昨年度案の検証	・昨年度の作品を検証し、どこが優れていて、何が足りないか明らかにしていく。	・昨年度より配当時間が多くあり、先輩案をふまえることで、より良いものを考える姿勢を引き出す。
(5)	避難所講演会	県外（神戸）より講師を招聘し、当時の様子を避難所の観点から様々紹介していただく。	・チャレンジプラン費用で招聘
(6)	講演会を聞いて	・気になったこと、感じたことをレポートする。 ・各クラスごと意見交換させて深めていく。	・どうしても聞きたいことはクラスでまとめ後日メールを送り講師からの回答を得るように配慮する。
(7)	調査研究 1	・資料を集めていく ①1家族に必要なスペースを体験的に判断させ、教室や体育館の収用人員を求める。 ②初中・初小の地区割り調査 ③地区人口の何割を収容出来るかを知る。	・校舎の共通スペース（開放しない部屋）はあらかじめ決めておく。 ・電話設置場所も調べておく。 ・1家族を5人という設計で、1家族に必要な広さを実体験で決定させる。
(8)	調査研究 2	・資料を集めていく ④何ヶ月避難所として提供するか、根拠をもって仮定する。 ⑤下水用マンホールの位置確認。照明の数、コード長 ⑥非常用倉庫の中身確認、トイレはいくつ？	・インターネットHPの活用 ・下水用マンホールの位置確認を通し、マンホールトイレ設置条件を照明とともに考えさせる。また、その他の仮設トイレの数を知る。 ・職員室電話使用を許可する。
(9)	調査研究 3	・資料を集めていく ⑦水や食糧はどう提供されるのか？（市の備蓄を知る）給食センターの活動見込みは？ ⑧救援物資のとらえ方 ⑨電気・ガス・水道復旧までの目安、電話の見込み	・様々な角度から必要な情報を調べていく。 ・調査研究 1, 2, 3はどれから始めても良い。外出許可は、市役所・初声市民センター・初声小を許可する。 ・PCルームを優先確保する。
(10)	調査研究 4	・終了していない調査 ・独自の観点での調査	・1～4の順番はある程度班の意志にゆだねる。
(11)	避難所とペットのあり方	・県内講師による講演会 ・体験に基づく講話をいただく。	・次時に考え方を深めるため、有効な質問が出るように配慮する。
(12)	講演会を聞いて2	・まず自分の考え方を固めた後、クラスで意見交換をし、班の基本方針を固める。	・振り返りのレポートを用意する。
(13)	避難所設計	自分たちの原案を考えていく	・昨年度のやり方にならう
(14)	避難所設計 2	自分たちの原案を考えていく	・昨年度のやり方にならう
(15)	原案チェック	・「避難所計画見直しの観点」を参考に、自分たちの考えの利点と欠点を探る。	・昨年度の観点を参考にする予定。
(16)	振替予定	・2/14振替	・年末の授業なので2/14に振替えて2時間分を確保する。

(17) ~ (21)	班の意見調整 や発表準備に 使う	<ul style="list-style-type: none"> ・割り振りはモデルであり、班ごとのペースにゆだねる。 ・プレゼンソフトを利用した発表提示画面と設計計画図の作成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PC教室の活用に当たっては技術科教諭との打ち合わせを充分に行う。
	班内意見交換 避難所設計	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な要素を考慮した避難所のデザインを設計していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室、体育館収容人数計画・トイレ ・照明&発電機・食糧配布場所・給水場所・ボランティア受付・ボランティア生活場所・情報交換場所・救護保健 ・救援物資受け入れ保管場所・更衣室 ・授乳場所・要援護者用場所・ペット受け入れ場所・自衛隊施設・お風呂・ヘリポート・テント用スペース・遊び場・車、車避難者対策
	避難所設計	<ul style="list-style-type: none"> ・計画完成 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアをまとめさせる。
	発表準備	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館図、校舎計画、全体構想図を書き上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A4版の体育館内図、校舎図を各班分用意し、色鉛筆等で完成させる。
	発表準備	<ul style="list-style-type: none"> ・何故そう考えたかのアピール文をプレゼンソフトで作成し、発表者を決め、発表についてアドバイスしあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表しやすい、プレゼンを準備させる。
(22)	災害電話171 の体験活動	<ul style="list-style-type: none"> ・各班1台の携帯電話を借りて、伝言ダイヤルへの登録を実体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県の研究費を執行する (2月1日に実施する)
(23)	クラス発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の発表をクラス内で行う。クラス内投票で、良かった案(クラス代表)を選ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・PCとプロジェクターを各3台準備しておく。
(24)	クラス案の向 上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・代表案への意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・選ばれなかった班のいいアイデアを代表案にどう活かすか検討させる。
(25)	学年発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスの代表案3本の発表 ・保護者一般の方をまじえた良い案への投票を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の投票は他クラスのいい案に絞る。 ・生徒票1点、保護者票3点 ・優秀案を選ぶ
(10)	講師による評 価と講演会		<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジプラン予算での県外(神戸)からの講師招聘
(26)	感想の作成と 感想発表交換	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りレポートに学年発表の感想と講演会の感想を記入する。 	
(27) ~ (29)	個人レポート 作成	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンソフトでA4 1枚の個人レポート(主として感想やアピール、学んだこと、どうしても書きたいこと) 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品は掲示して発表する。
(30) ~ (32)	避難所掲示物 の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の避難所に必要な掲示物を分担して制作する 	<ul style="list-style-type: none"> ・何が必要であったかは、県外講師への質問事項としてアドバイスをもらう。

(2) 本時展開の要点 (補足)

	題材	本時展開の要点
(1)	地震の準備と対策	①ユネスコ資料と回答シートを配布する。 ②本時までの「防災学習の経過・内容」を教師が確認する。 ③ユネスコ資料の要点をつまんで紹介。特に準備と避難について注意を引きつける ④全体提案を受けて、ユネスコ資料に対する疑問・アドバイスを回答シートに記し提出する。
(2)	避難所学習に何故取り組むか	①前回の回答をもとにした、教師の指摘。避難の仕方については、地震先進国日本においても進んでいないことに気付かせる。 ②教師による、避難所に関するログの紹介を通し、きちんとした避難所運営が出来る地域のすばらしさに気付かせる。
(3)	避難所学習の取り組み方の説明	①クラスの分担は教師が前もって決めておく。 ②(形式は担任のクラス指導で) 避難所学習のスケジュール、取り組み方を十分に説明する。 ③外出を伴う調査活動の申請の仕方を十分に確認する。
(4)	前年度案検証	頑張っていたが、まだ観点が足りないようだ指摘する。
(5)	講演会	
(6)	振り返り	講演会を深めていくようにクラス討議させる。
(7)	調査研究 1	活動 1, 2, 3 の取り組み順序は各班の自由。
(8)	調査研究 2	活動 1, 2, 3 以外の調査が必要なら担任の許可のもと深めて良い。
(9)	調査研究 3	活動 1, 2, 3 と並行して、或いは終了次第、設計検討に入っている。
(10)	調査研究 4	補充時間 (授業カット対応分に使う場合あり)
(11)	ペットの扱い	
(12)	振り返り	講演会を深め、ペットについての班の考え方を確立させる。
(13)	避難所設計 1	
(14)	避難所設計 2	
(15)	見直し点検	自分たちの案を用意した観点から分析させる。(16)は2/14に振替
(17) ~ (21)	発表に向けての準備	①事前調査の状況を把握しながら、各班別に個別にアドバイスする。 ②各班に、審査の観点を示し、より良い案への意欲を高める。 ③生徒の活動を観察を通し評価する日として捉える。 ④何故そういう案になったかの理由付け、セールスポイントを上手にまとめさせ、プレゼンを作らせていく。 ⑤6人を、プレゼン制作・体育館・校舎内・学校全体構想図等に分け、責任を持たせて、作業を完成させる。
(22)	災害電話171の体験活動	①事前に171のシステムを家庭にも通知。 ②1日に実施できるよう学校の予定をあらかじめ変更しておく。
(23)	クラス発表会	①PC, プロジェクター各3台を事前に準備する。 ②各班の意見を発表後、クラスのベスト案1つを選出する。

24	案の修正強化	その案に、選ばれなかった班のいい意見を添えて強化する。
25 ⑬ ⑭	学年発表会 講演会 評価	①保護者、地域の方、危機管理課の方にこの日の発表会を見に来てもらい、メモ・投票用紙を渡す。 ②3作品の発表後、一番いいと思う案に投票してもらい。生徒は自分のクラス案には投票できない。地域の方・保護者の方は一票3点で投票していただく。直ちに開票しベスト初中案を選ぶ。 ③講演の最中に開票し結果を発表する。講師の講評もいただく。
26	振り返り	感想を書かせ、発表交換することで深化をはかる。
27 ～ 29	個人レポート作り	①技術科行天先生とよく連絡を取る。 ②各個人でプレゼン1枚を作成させる。
30 ～ 32	避難所掲示物づくり	①集計の結果1位の作品に関わる掲示物を全クラスで作成する。 ②掲示物の使い方を生徒に伝えておく。

9. 講師、及び講師の講演内容

- (1) 災害救援ボランティア推進委員会事務局員 天寺純香
「避難所の実際について」
- (2) ボーイスカウト横浜 84 団副長 看護師・動物管理士・ドッグシッター 渡辺智子
「避難所とペットのあり方について」
- (3) 災害救援ボランティア推進委員会事務局長 澤野次郎
「初声中の避難所案に対する講評」

② 県外講師による「避難所講演会」の様子とアンケート結果

ア) 講演の様子

生徒から寄せられた感想文を紹介します。

- ・地震は恐いと分かった。避難所は大切だと思った。
- ・地震はとてもこわいなと思いました。
- ・今日の話のをこれからの避難所計画に役立てたいと思った。
- ・大地震が来たら大変だということが分かった。
- ・避難所生活は大変だと思った。
- ・自分に出来ることは何でも [?] やりたい! と思った。
- ・今日の避難所学習は、とても大地震があったときに役立つ物だと思った。
- ・避難所はとても大切なところだと思った。地震は怖いと思った。
- ・地震の時の状況がとても分かり、あらためて怖いと思いました。今日の講演で、前よりも避難所の必要性を考えられました。
- ・家の中でも1番安全な所を決めた方がよい。食べ物も買って、色々決めておく。
- ・大地震が来たときに生活する場所が絶対に必要だと思った。だから避難所の計画



をしっかり立てておくべきだ。

- ・人々の譲り合いや一人ひとりの心のゆとりから、助け合いの輪が広がることが分かった。そして、被害を最小限に抑えるためにはひびの心構えが必要だと思った。
- ・思ってた被害より大地震の被害がものすごく大きくてびっくりした。
- ・避難所がすごく大切だと思いました。
- ・阪神の地震の「実際」の映像を見せたのが効果的だと思った。しかも写真じゃなくて映像。
- ・とても大変な話だと思いました。わざわざ初中まできていただいて、ありがとうございました。これからも日本中、そして世界中の人々のために頑張ってください。
- ・どうもありがとうございました。今日の話をかきとりたいと思います。
- ・地震が起きたら大変だと思っていたけど、今回の生の話を聞いて今日の話はとても大切なことだと思いました。貴重な話をどうもありがとうございます。
- ・今日のことで地震の恐さを知りました。また地震の後の津波もとても怖いと思いました。お忙しい時間ありがとうございました。
- ・今日の話はスゴクためになった!!ありがとうございます。そのためにこれからの学習が”大切”だということを知った!!本当に今日はありがとうございました!!
- ・この授業をうけて家の対策を考えたいです。
- ・天寺先生を見習って、笛を毎日持ち歩くようにします。今日はどうも貴重な話をありがとうございました。
- ・大地震が来たら大変だと思った。色々教えてくれてありがとうございました。
- ・わざわざ遠いところから来て下さってありがとうございました。大地震が来ないことを願っています。まずは自分の命をしっかり守りたいです!!
- ・わざわざ僕達の為にありがとうございました。この講演会を次にいかしたいです。
- ・今日はありがとうございました。
- ・今回見せてもらった映像を見たときには、こんなに大変なんだと思った。前まではこんなに大変なこととは思っていなかった。いつ大地震が来るか分からないので今回のような話が聞けて良かったです。
- ・大地震の話とっても大切だと思いました。1時間ありがとうございました。
- ・今日の講義ありがとうございました。とても参考になりました。今日の講義は色々体験してきた人の講義だったので、とても集中して聞けました。
- ・いつも考えないようなことでおどろいた。自分では知れないことをしれて良かった。
- ・大地震に備えて色々計画を立てなければいけないことが分かった。
- ・あのDVDを見たとき、電信柱の下敷きになったりしたら大変だと思った。自分たちは未然に災害を防げないから、それなりに準備が必要だと思った。
- ・先生の話聞いて本当に地震が大変だと思った。
- ・家が海の近くなので、いつも津波のことが気になっていたもので、津波についてもっと知りたかった。
- ・初中の計画が役にたつと良いと思いました。私もボランティアをしてみたいと思いました。
- ・避難所がどれだけ大切でどれだけ大変なことになるかが分かりました。必要でもどこにあるか分からないことがすごく困るなあ・・・と思った。
- ・大地震が来たら大変どころじゃないんだ!とわかった。避難所は食べ物も少なく、分けなきやいけないんだって思った。(年寄り★こども)

イ) アンケート集計結果

	質問項目	5	4	3	2	1	平均
1	大地震が来たら大変だと思った。	91	7	1	0	1	4.9
2	避難所は大切だと思った。	79	14	6	1	0	4.7
3	避難所の計画は必要だと思う。	65	27	6	2	0	4.6
4	今日の講義は大切な話だと思う。	74	16	8	2	0	4.6
5	初中の計画も良い物にしたい。	65	21	12	2	0	4.5

③ 県内講師による「避難所とペットの在り方講演会」の様子とアンケート結果

ア) 講演の様子



- ・自分の家には犬がいて、どんな人にもかまないから一緒に連れてきたいと思った。
- ・いつもはつまらないそうごうだけど、わたなべさんの話はわくわくしながら聞いた。
- 私もペットがいるので、ペットの避難所があるなんてとても良かった。ハムスターも避難して良いのですか？
- ・今日の授業はとても勉強になりました。私は犬を飼っています。なので、犬の話とかがしていたのでこれからの参考にしていきたいです。
- ・ペットのことを詳しくわかった。今までならペットより人間の話が中心だった。
- やめたいと思ったことはありませんか？
- ・私も1人の飼い主としてもっとうちの犬はゲージにならさないといけないなあ!!と思った。大切なペットだからこそもっと避難所のことを考えなきゃいけないと思う。
- ・やっぱり犬の事などけっこう気になっていたのもとても役にたった。
- 病気もちの犬をもってきた場合どうするのか？（どうしても離れたくないといって）
- ・災害がおこった時、自分のペットをどうすればよいか前から考えていたけど、今日の話でよくわかった。これからもペットのことを考えてあげたい。
- ・今まで勉強してきて、ペットのことをあまりかんがえてなかったけど、今日の講義でとても良い勉強になりました。
- ・ペットを大切にしない人もいるんだって思いました。私はペット（犬）をかっています。犬は声（ことば）も出すことができず、パニックになったとき人の足にかみつくとはいちよっこわかったです。
- ・家にペットはいませんが、共感できました。避難所学習の参考になりました。あり

がとうございました。

- ・災害が起きる前に特に計画が大切だと思った。
 - ・今行っている避難所学習の参考になりました。とても良い勉強になりました。
 - ・講義を聞く前は全く興味がなかったけど、少しキョーミがもてた。
 - ・今日の講義を聞く前はあまりペットの避難所を考えていなかったけど、今日の講義を聞いて考え直そうと思った。
 - ・今日の話はとても役にたった。これから勉強していき、ペットたちのことも考えた方がいいと思った。
 - ・地震の時は、食べ物やトイレのことだけでなくペットのこともよく考えなきゃいけないと思った。避難所を使いやすくするためには、今回の話は良く参考になった。
 - ・今まであまりペットのことは考えてなかったが、今日の講義を聞いて考えた方がいいなと思いました。これからはペットのことも考えていきたいです。
 - ・今日の話を聞いて災害が起きたときにペットのことは全く考えていなかったのに、この話を聞いて良かったと思います。
 - ・一番印象に残ったのは、災害が起きた時に犬・猫などのペットは逃げて、野良犬になって襲いかかってくるのが意外だったのと、猫が帰ってこないのも意外だった。
 - ・一番ペットの話をしていたので、ペットが大切だと思った。
 - ・ペットが嫌いな人は3人の内の1人と聞いて、びっくりしました。こんなに嫌いな人がいると知り前とは違う考えをもちました。
 - ・実体験などをもとにしたとても詳しい話で、とても参考になった。
 - ・今日は参考になる講義ありがとうございました。講義を受ける前までは避難所にペットを連れて行って一緒に暮らすつもりでした。避難所にはペットが嫌いな人もいるし、特に日本人は3人に1人が嫌いなわけだから、もし災害があったら間を理の人のことも考えて行動したいと思います。
 - ・すごく参考になりました。私たちが考えたレイアウトにペットの場所が入っていませんでした。今日の話を聞いて改めてレイアウトし直そうと思いました。
- かばんの重さは何キロくらいあるんですか？
- ・とても良い勉強になりました。本当にありがとうございました。
 - ・ペットは大切な家族だから私達と同じ住みやすい環境にしていかなければいけないと思い、また、それについて考えていかなければいけないと思いました。
 - ・私は犬を飼っているので今日の講義を聞いて良かった。
- 手放しをした野犬は飼い主が来てもその犬は忘れてかみついたり逃げていくのですか？あと鳥の場合とかは飛び回ったり暴れたりして助けてサインを出すのですか？
- ・色々犬の怖い時の特徴や、助けてというサインを出すときの仕草がわかりました。
 - ・今回の講義で、やっぱりペットの避難所は必要なんだと思いました。教えてもらったことを参考にして、避難所学習に役立てていきたいです。どうもありがとうございました。
 - ・すごくためになる話ばっかだった。犬についてよく分かった。
 - ・自分の家も犬や鳥・カメがいるからやっぱり犬の避難所を考えた方がいいと思った。
 - ・自分たちの避難所学習するにあたってとても参考になった。
 - ・犬がそこまで怖いとは思わなかった。ペットを9匹飼っているのもとても大変だというのがわかりました。
 - ・今日の話でペットの大切さを身をもって知った。
 - ・同じ学年で犬を飼っている人が沢山いました。避難所にペットが集まったら、すご

- い数になると思うので、犬が嫌いな人は大変だと思いました。
- ・今まで、避難所のことを考えているときに、ペットのことは考えてなかった。だから、ペットの事もふまえてこれから考えていきたいと思う。そのためには、初声地区にはどのくらいの数のペットがいるのかや、ペットが嫌いな人のことも調べなければいけないと思う。
 - ・今日の話はいい参考になったと思いました。今までペットのことなんか気にしていなかったけど、今日ペットなどのことをやって、こういう事も考えなきゃいけないんだなッと思いました。
 - ・今まで避難所には、人が避難してくる場所だと思っていたけど、ペットにも逃げるところがないのだから、ペットの管理もしっかりしなければと思った。私はペットを飼っていないけれど、ゲージの中や鎖でつながれたペットはかわいそうだと思うからペットのことも考えた避難所づくりがしたい。
 - ・人のことばかり気にしていてペットのことはあまり気にしていなかった。
 - ・災害が起きた時、人のことだけでなく、他の動物のことも考えなければならぬと思った。
- ペットが災害の時パニックになったときどう対処するか。
- ・ペットとはなれたくない。自分勝手なワガママが通用しないことが改めて分かりました。
- 医療器具とかは何日目ぐらいからあるのか。
- ・今日の講義は避難所についてよく分かった。
 - ・ペットは管理センターに預けて、仮設住居ができたときに、ペットを返してもらえば良いと思う。
 - ・ただ単に避難すれば（ペットの嫌いな人中心の話で）イイということではないことが分かった。あと（実際に背負っていないから分からないけど）あんなにでかいバッグをもつんだと思うとすごい大変だと思った。
 - ・ペットのだいじさとひとも大事にされねばと思った。
 - ・避難所にペットが来るということは知っていたけど、大変なことだとは思いませんでした。今日の話はとても参考になりました。犬（ネコ）にとっても大切なことがあると思うので調べていきたいです。
- ひなんする所で動物についてよく考えることが大事だと思った。猫も犬も嫌いな人は三浦に何人いるの？
- ・避難所にペットのことがよく分かった。けど、私は犬とくらす意志があったが話を聞いて分かった。
 - ・今までペットの避難のことを考えてなかったの、今日はペットのことを考えるのに良い時間だと思った。
 - ・犬や猫も同じ生き物なので、いっしょにいてもいいかなと思ってた。犬・猫はゲージ、人間は避難所。というのが飼い主さんもかわいそうだと思う。
 - ・ペットを集めておくテントはやっぱり動物別の方がいいと思う。
 - ・今日のペットの避難のことについては色々なことが分かり参考になった。
 - ・ペットのことを聞いて良かった。
 - ・はじめはペットの話なのかと思って聞いていたらペットの話が出てきて確かにペットの話だと思いました。そして聞いているうちにこの地区にいるペットの数は増加しているのか減少しているのかと思いました。
 - ・私の家にはまだ家に来て約2ヶ月の仔犬（コーギー）が居ます。もっともっと犬に

とって良い社会を作っていきたいです。そしてこの時間のことを家族、知り合いに知らせて広めたいです。

- ・とても役にたつお話でした。
- ・この授業をやっていなかったら犬にかまれていたかも知れないし、分からなかったところが分かったからとてもいい授業でした。
- ・ペット（動物）が嫌いな人がけっこういた。動物嫌いな人と好きな人の場所を分けたらいいと思った。
- ・ペットの避難のさせ方やマナーについては色々学ぶことがあった。このことを参考にして発表の時はペットをどうするかなども考えて予想図などを作っていきたい。
- ・すごくペットの避難が大切だと思った。

イ) アンケート集計結果

	質問項目	5	4	3	2	1	平均
1	今日の講義を受ける前は、避難所にはペットは避難して良いと考えていた	25	43	24	10	2	3.8
2	今日の講義を受けて、「ペットの避難」には考えるべきことがあると思った。	67	28	7	1	1	4.5
3	自分たちの避難所レイアウトにおいて、今日の話は参考になった。	67	27	8	2	0	4.5
4	ペットが避難してきて良い避難所にしたいと思う。	60	29	12	2	1	4.4

④ 171 体験学習会の様子とアンケート結果

ア) 体験学習会の様子





上の2枚の写真は災害用伝言板に挑戦している様子

- ・今日の171体験はとても良い経験になったと思います。まだ171の登録には自信がありませんがこれから出来るようにして今後役に立てたいと思います。
- ・この171は電話が通じないときにすごい役にたつと思っています。僕達はその171のやり方をやれないと意味がないから、しっかりと覚えて使えるようにしたいです。メールでの登録も覚えて使えるようにしたいです。
- ・私は初めて「171」を体験したのですが、思っていたより難しかったです。だけど、何となくやり方が分かったので、実戦の時にちょっとは時間の短縮が出来るかなと思います。今日はどうもありがとうございました。
- ・「171」体験学習を行って、すごく勉強になりました。「171」は、大地震の時、すごく役立つと思います。
- ・「171」体験が出来て良かった。
- ・今日の体験はとても役にたってよかった。auでもできてよかったと思う。
- ・今日の災害電話の録音練習はとてもためになると思った。
- ・今日はとてもよい勉強になりました。このことを機会に活用していきたい。
- ・171のやり方が分かり良かったです。
- ・今まで171のことを知りませんでした。この体験してよかったと思った。
- ・今日学習出来ていざというとき使えたら良いと思った。でもTVなどで知らせた方がいいと思う。
- ・今日の171をやって地震があったときすぐ思い出して、171で登録できるなと思うと少し安心が出来ました。家族の声も聞けてもし地震があったとき、ほっとできると思いました。171は本当にイイと思いました。
- ・メールでも教えられることが分かった。
- ・(質)メールは誰とでも出来ても、電話が3件くらいしかできない?PHSでも「171」につながるんですか?
- ・家族全員に知ってもらい、災害時に困らないようにしたい。
- ・案内が少し難しかったから分かりやすくしてほしい。でも災害時は使うと思います。
- ・今度やる時は、ちゃんとやりたい。
- ・とてもおもしろかったです。わからない所も分かったので良かったです。また、初声中学校に来て下さい。
- ・次は、成功したいと思う。

- ・意外と楽にできた。
- ・とてもいい経験ができたと思います。
- ・(質)「171」の他に、何かないのでしょうか?
- ・短い時間だったけれど、とても楽しかったです。
- ・良い体験ができたと思います。
- ・「171」を覚えていれば、誰でもできることだから、良いと思いました。
- ・災害伝言板について、よく分かりました。
- ・今日は、知らないことが分かって、自分のためにも、みんなの為にもなりました。
- ・難しかったけど、とても楽しかったです。「171」サービスのことが分かって良かった。
- ・とても便利なものだと思った。親は、耳が聞こえないけど、伝言板なら使えると思った。
- ・はじめよく分からなかったけど、やっているうちに分かってきた。
- ・今日「171」体験学習会をやってみて、楽しかったです。もう少しやりたかったです。ありがとうございました。
- ・今日、やらなくて、もし大地震が来てパニックになったら、絶対にできないと思ったから、体験できて良かった。
- ・初めて「171」を知った。教えてもらって良かったです。メールの方も教えてもらえて、良かったです。今度、メールで「171」をやりたいと思います。
- ・携帯電話を持っていないので、意味がないように思う。
- ・「171」を考えると、大変役に立つ事が分かりました。
- ・(質)今日、僕たちのために来ていただいてありがとうございました。とっても勉強なることを教えてくれてありがとうございました。質問ですが、携帯の電話番号で録音・再生はできますか?
- ・(質) D o c o m o の携帯電話以外の会社の電話でも、「171」につなぐことは可能ですか?
- ・今日の体験で、結構できるようになりました。分かりやすかったです。
- ・これは、大地震がもし起きたら、絶対に使いたいと思います。今回の経験は、とてもいい物になりました。絶対覚えておきます。
- ・もう少し登録が簡単だと良いと思います。小さい子やお年寄りまで、簡単にできる登録があると良いと思います。今日もらったステッカーは、災害時に活躍して良いと思います。ありがとうございました。
- ・今日、始めて「171」をやって、”分かっていた方がいいんだ!”と思いました。もし、地震が起きたらやってみたいと思います。
- ・今日は、ありがとうございました。いろいろ勉強になりました。災害時に役に立つと思います。実際にやってみて、改めてこの機能の大切さを感じました。これからも、システム向上のために全力を尽くして頑張ってください。
- ・災害時に「171」があれば、便利になると思います。
- ・今日の体験学習会で、「171」の練習はとても役に立つと思います。災害時に、もしもやり方が分からなかったらパニックになってしまうと思いました。また、毎月1日が、体験日だという事をはじめて知りました。
- ・今日の体験学習会のおかげで、災害電話「171」の使い方がよく分かりました。これで、家族と災害時に連絡がとれるので安心しました。僕は、近々携帯電話を

買いますが、その時にも役に立つと思いました。本日は、どうもありがとうございました。

- ・すごくよかったですと思います。
- ・今回の体験は非常に良かったと思います。この災害電話で、災害時一人でも助かると嬉しいです。ありがとうございました。
- ・いつも、携帯電話を使っていますが、知らないこともあって、これが経験できて良かったと思います。
- ・D o c o m oの携帯電話は、使いやすく便利です。
- ・今日、「171」をやって、いい経験になりました。地震が来たときに、「171」にかければいいと今日分かりました。
- ・実際に地震があって、今日やった事ができるか分からないけど、今日の体験があって良かったと思います。

イ) アンケート集計結果

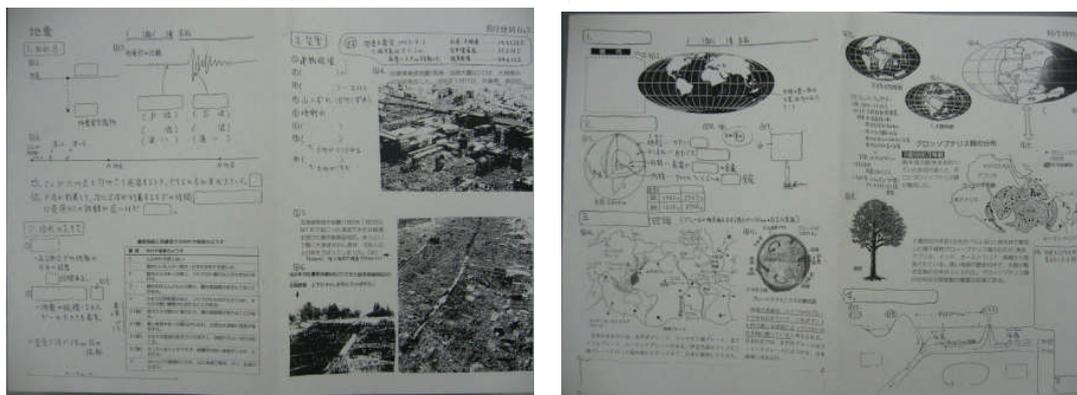
1. 今までに171での登録を練習したことがありますか？
ある 29 ない 70
2. 家族はこの171での登録のやり方を知っていますか？
知らないと思う 73 知っているがやったことは無い 26

(以下5段階評価で回答してもらいました。)

	5	4	3	2	1	人数	評価
3. 「171」での登録は、大地震時に役にたつと思いますか？	76	20	3	0	0	99	4.7
4. 「171」での登録ができるようになったと思いますか？	18	34	37	5	5	99	3.6
5. 今日の経験(体験学習会)をすることができて良かったと思いますか？	61	27	9	1	1	99	4.5
6. 災害用伝言板(メールでの登録)もできるようになりたいですか？	47	24	20	5	3	99	4.1

⑤ 初声中学校教員が作成した学習資料の実際と生徒の活動の様子

ア) 避難所学習開始時の地震学習資料



イ) 1 学年会が作成したワークシートの紹介

1 年 総合 「避難所学習」ワークシート

2007年1月17日(水) 5校時目<音楽室>

1年()組 氏名()

1 学期から準備を進めてきた避難所学習の発表までいよいよ1ヶ月をきりました。前回までの取り組みの中で、みなさんはグラウンド、体育館などのグループに分かれ、避難所に関する調査研究を行ってきました。いよいよ今日からは各学級で、より具体的な避難所プランを立てていきましょう。

1, もう一度、考えてみよう!

まずは下の新聞記事を読んで下さい。今から12年前の今日、多くの人たちが経験したことのない大地震が阪神・淡路地方で発生しました。あれから12年・・・地震被害が最も大きかった神戸は、復興し、かつての活気を取り戻してきたと言われていますが・・・。

(新聞記事省略)

記事を読んでどんな感想を持ちましたか? 阪神・淡路大震災から12年たった今日でも私たちの知らない地震の被害(真実)があります。そして、未だに精神的なケアが必要な人たちがたくさんいるのです。神戸の復興はまだまだこれからと言えるでしょう。

- ①新聞記事を読んであなたはどんな感想を持ちましたか?
- ②新聞記事のようにならないためにはどうしたらよいだろうか?
 - ・国、市(行政)
 - ・私たち自身

2, あっ!地震だ!

- ①その時、あなたにとって一番大切なものは何だろうか?
- ②大地震に見舞われ、あなたが被災者になったとして、困ることや生活で変わることは何だろうか?
- ③あなたが被災者になって、避難所生活を強いられた場合、最悪な避難所というのはどのような状態だろうか?
- ④生命・生活の維持が確保され、ある程度、町が復興してきた。さらに正常な生活にもどる上であなたにとって大切なもの、必要なものは何だろうか?

3, 情報を共有しよう!

以下の内容はこれからみなさんが避難所プランを立てていくのに必要な最低限の情報です。これをもとに進めていきましょう。ちなみに、問題形式になっていますので、() にあてはまる数字や語句を書いていきましょう。

- ・三浦市の統計による平成17年の初声地区の人口は()人で世帯数は()世帯である。

内訳	人口	世帯数
三戸	()人	()世帯
下宮田	()人	()世帯
入江	()人	()世帯
高円坊	()人	()世帯
和田	()人	()世帯

- ・三浦市は初声中に避難所として収容できる人数を()人と想定しているが…。
- ・体育館担当の調査で、初声中体育館の収容可能人数をおよそ()人前後と想定したが…。
- ・初声中体育館の大きさはたて()m、横()mである。
- ・体育館担当は、まったく知らない人が体育館で寝泊まりする場合、自分が我慢できる最低限の距離を()cmであると予想した。
- ・体育館の和室は()部屋ある。
- ・体育館にはステージとステージをつなぐ()がある。
- ・初声中の備蓄倉庫は()にある。
- ・備蓄倉庫の中にある簡易トイレ<便座+ふくろ>は()個ある。
- ・備蓄倉庫の中にある組み立て式トイレ<ドントコイ>は()個ある。
- ・初声中にはマンホール型トイレが()個ある。
- ・マンホール型仮設トイレは深さ1.5mのマンホールで避難者が100人を超えると()日で満杯になる。
 - ・貯水槽は初声中の()にある。
 - ・貯水槽には常時()tの水が入っており、初声の人口<約10000人>の()日分がまかなえる。
 - ・初声中グラウンドは車も入れるが、災害時()としても利用可能である。
 - ・三浦市は大地震に見舞われた場合の犠牲者数を()人と想定している。

4, 避難所プラン作成にあたっての想定

以下の想定で避難所プランを立てていくこととします。確認しておいて下さい。

- ①災害による被害は20%～30%の家屋倒壊とします。
- ②地震発生は2月、日中の生徒がいる時間帯とします。
- ③想定する避難所は、発生初期の段階のものとしてします。
- ④初声小も避難所として考えられる状況とします。
- ⑤避難所として学校を開放しますが、10日後に授業が再開されると考えます。
開放する場所は、普通教室・特別教室を問いません。
- ⑥開放しない場所は校長室・職員室・PCルーム・授業ができる11教室・事務室・放送室・配膳室・保健室とします。さらに、以下の内容にも注意して下さい。
 - I 授業はできるが、避難スペースとしてふさわしくない場所
図書室・理科室・技術室
 - II 避難スペースとして開放できる場所
音楽室・美術室・被服室・第1会議室
- ⑦救援物資の到着は地震発生から3日後とします。
- ⑧体育館、校舎のトイレは使用できない。

5. 設置場所やその理由を考えよう！

別用紙で設置品目リストを配りますので、各学級のグループで検討していただいて下さい。

ウ) 取捨選択用設置品目リスト

設置品目リスト

・採択のらんには○か×を入れて下さい。なお、×の場合でもその理由をしっかりと記入して下さい。

	採択	理 由
トイレ		
照明		
発電機		
食料配布場所		
炊き出し場所		
給水場所		
給水車スペース		
情報交換場所		
救護保健場所		
救援物資受け入れ保管場所		
更衣室		
授乳室		
おむつ交換場所		

要援護者用場所		
ペット受け入れ場所		
テント		
遊び場		
ゴミ置き場		
受付		
車誘導対策、車用スペース		
喫煙場所		
ヘリポート <small>確保することも考慮に入れる</small>		

エ) 体育館学習のワークシート

1年 総合（防災の取り組み）＜体育館＞

1年（ ）組 氏名（ ）

先週は実際に体育館に行き、どのくらいの受け入れ人数が可能なのか測ってもらいました。今日からはどの部分に何を設定したらよいか、より具体的なアイデアを話し合ってもらいます。時間があまりないのでしっかり取り組みましょう。

1, 先週の取り組み（メモをとって記録しておこう）

	縦	横	収容可能人数（夏・冬）	
体育館				
ステージ				
2階フロアー				

2, 初声地区の被災者 ・どんな人がどれくらいいるだろう？

3, 体育館で解放できないところはどこかあるだろうか？

4, 体育館にはどのような目的の部屋が必要だろうか？

5, 体育館を避難所として使用する場合に必要なことやものは何だろうか？（被災した時の気持ちや状況も考える。）

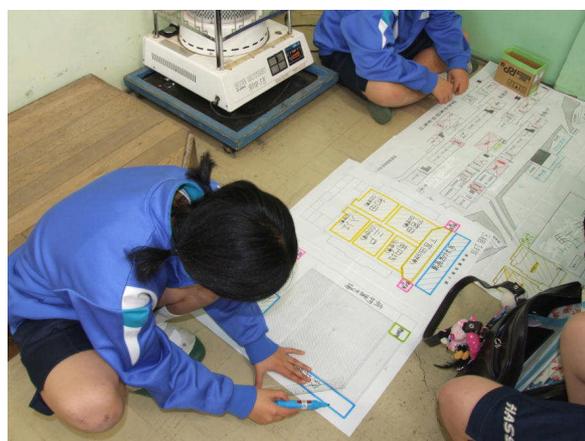
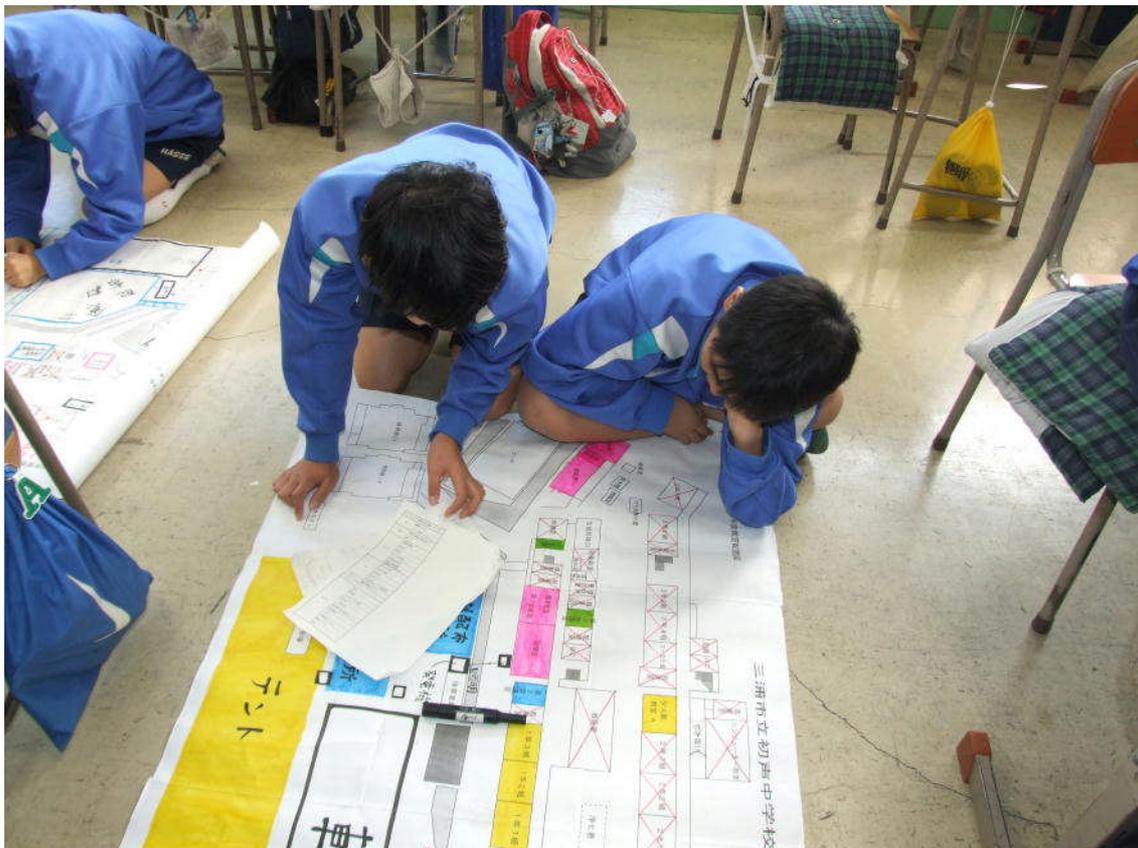
- ① 衛生面
- ② プライバシー
- ③ ルール
- ④ 情報

6, 今後、避難所を設定していく上で調べておくことはあるだろうか？

・担当からぜひ、調べて（考えて）ほしいこと

- ① 地下道はどう使ったら効果的か？
- ② 体育館の放送機器はどう、使ったらよいか？大地震の時は電気がシャットアウトするのでは。実際に使えるのか？使えなかったらどうすればいいか。
- ③ その他（間取りを思い出して、考えてみよう）

オ) 生徒の「避難所学習」活動の様子



5 チャレンジプランに取り組んで

(1) 成果として得たこと

<三浦市の学校防災計画を整備する視点で>

- ①三浦市学校防災計画を教職員一人ひとりに周知できるきっかけになったこと。
- ②市の危機管理課との足並みをそろえた防災準備を進めることができたこと。
- ③避難所運営委員会を各学校で開いていく道筋をひくことができたこと。
- ④印刷物等、生徒や教職員に還元できる成果物の作成を行うことができたこと。
- ⑤各学校長・防災担当者等に成果を還元できる波及効果の高い実践になったこと。

<避難所カリキュラムの質を向上させる視点で>

- ⑥チャレンジプランに関わる本市の防災教育について、ユネスコの国際会議で紹介することもできたこと。

<初声中学校が総合的な学習の時間で「避難所学習」に取り組んだことについての視点で>

- ⑦初声中学校において、チャレンジプランで示した計画に沿って、具体的に避難所学習を展開することができたこと。
⑧地震災害をきちんと捉え、自分に関わることとして、初声中学校の生徒が防災教育に取り組むことができたこと。
⑨外部講師の活用で、生徒の心に迫る効果的な講演会を開催することができたこと。
⑩避難所にはルールがあるのだという自覚をもった若い世代の育成を行うことができたこと。

(2) 成果物

<三浦市の学校防災計画を整備する視点で>

- ①三浦市学校防災計画～大地震に備えて～（印刷部数 500部）
各学校防災担当者用「三浦市学校防災計画」（教育委員会で手刷り制作部数20部）

<研究自体の成果として>

- ②初声中学校生徒レイアウト作品（初声中学校校内印刷）
③三浦市教育委員会チャレンジプラン実施成果報告（印刷部数 160部）

(3) 全体の感想と反省・課題

<三浦市の学校防災計画を整備する視点で>

- ①学校教育と行政の防災機関との間にたつ教育委員会のコーディネートが上手くいっていない現状が日本の至る所で見られるかもしれません。今回のチャレンジで、コーディネートに着手し、一体感のある活動に取り組み始めたことの意義は大きいと考えています。
②新しい考え方を盛り込んだ「大震災に備えて」を、本事業が契機となって、市内全職員に周知できることは、とても大きな成果といえると思います。

<初声中学校が総合的な学習の時間で「避難所学習」に取り組んだことについての視点で>

- ③カリキュラムを提案することは決して簡単なことではありません。学校とよく相談して、学校のニーズを踏まえ、一方的な提案にならないように配慮することが肝要であります。さらに踏み込めば、以下の点も現実の課題となりました。
- ・基本的にはあくまでも学習教材であって、学校が考えなければならない現実的な避難所レイアウトと整合性が保てるわけではないこと。その点で混乱を招くおそれがありました。
 - ・地域に実践を伝えることは、上記の点でやはり混乱の原因となるので、避ける必要がありました。

・この避難所学習の成果物自体が実効性のあるものになるには、まだ数年の経験が学校に必要とされると思います。また、用意されたカリキュラムでなく、担当学年自らがカリキュラムに改善を加えていくようになる必要があると思います。

<従来の防災学習に加え新たに総合的な学習の時間に防災教育を推進する視点から>

- ④防災教育は、本来、市内の全小学校・中学校において進められることが望ましいといえます。そんな中、今回の避難所学習カリキュラムは、中学生向きに考えたカリキュラムであります。市内にはまだあと3校中学校があるのです。できるものならば、その3校すべてにおいて、防災教育が展開されることが望ましいと思います。しかし、すでに立ち上がっている各校の総合的な学習スタイルの中に、新たに防災教育が入り込める隙間がほとんど無いのです。他校が乗り換えたいと思うような具体的成果をあげていくことが出来れば、いつかその良さをアピールできるのでありましようが、まだそこまでの現状に至ってはいません。
- ⑤今回の試みで、学校現場における学校防災計画の整備はかなり進みました。しかし、児童生徒に最低限教えるべき、従来からやっていた防災学習だけではなく、「総合的な学習の時間」を活用した積極的な「防災教育」を展開していくには、カリキュラムを開発するだけでは足りません。様々な「安全教育」が必要な中、特に「防災教育」の必要性が十分に認められ、教育課程の中での教育活動として位置づいていくためには、今なお時間及び、必然的な動機づけが必要だと思われまます。

<避難所学習カリキュラムの質的向上をはかる視点で>

- ⑥本カリキュラムは、全国どこでも実施できるものとして、実証的・探求的興味を持続できる内容になるように心がけてきました。しかし、鍵となる講演会については、やはり実体験をし、本物を知っている外部講師の活用がより効果的であることは明らかであります。

本年度はチャレンジプラン等の資金援助をもとに有効な講演会を開けましたが、それが出来ないとき、校内の講師（教職員）がどれだけ災害について正しく、生徒個々に迫る話が出来るとも大きな鍵を握っていると思われまます。

- ⑦実際に扱ったDVD資料等は非常に価値のある作品なので、おすすめできます。

以下に、その作品名と入手方法と特徴を簡単に紹介しまます。

ア) 災害用伝言ダイヤル「忘れていない？災害伝言171」

- ・インターネット可能なら <http://www.ntt.co.jp/saitai/171.html> に接続。
- 今回は、NTT東日本災害対策室よりビデオテープを借用して対応。
- ・放映時間・内容が適当で体験学習会の動機付けに向いています。

イ) 激震の記録 阪神淡路大震災の記録

- ・災害救援ボランティア推進委員会からの情報提供DVD。
- ・放映時間・内容が適当で被災体験のない、阪神大震災を直接知らない世代への講演会の動機付けに向いています。

ウ) 20世紀日本の地震災害 過去の震災の記録

- ・災害救援ボランティア推進委員会からの情報提供DVD。
- ・興味を持った生徒の学習を深める貴重な資料です。指導する教員も把握して

おくべき情報が多い作品です。

- エ) 関東弁護士連合会シポジウム報告書「大規模災害に備える」野町佳弘氏講演要旨
- ・同連合会、及び連合会を通し野町氏に電子データの提供及び校長会等への配布の許諾を得ました。
 - ・学校防災プラン検討会等で避難所について考えるのに非常に有効な資料です。

- ⑧ 「避難所学習に関する最終的なアンケート集計結果」は以下のようになりました。

回答日：平成19年2月7日 100名

	質問項目	5	4	3	2	1	平均
1	避難所の計画は必要だと思う	66	28	5	1	0	4.6
2	避難所学習に興味を持てた	13	43	34	9	1	3.6
3	避難所学習に取り組んで良かった	31	43	20	5	1	4.0
4	大地震への理解が深まった	44	42	11	3	0	4.3
5	避難所への理解が深まった	39	43	15	3	0	4.2
6	避難所学習の講演会は良かった	38	42	17	2	1	4.1
7	満足のいくプランが作れたと思う	11	42	36	10	1	3.5
8	プレゼンタを扱えるようになった	17	32	44	5	2	3.6

上記の表と一番比較すべき相手は、他学年、他校で実践されている「総合的な学習の時間」への、生徒の回答なのであると思います。残念ながら、具体的な数値の根拠をお示しすることは出来ませんが、「総合的な学習の時間」への生徒評価としては、高い評価を得ているであろうと判断します。

また、このカリキュラムがねらっていた目標に対しては基本的に目標を達成しうるプランだったと結論づけて、本報告を閉じたいと思います。

このような貴重な機会をご提供頂いた防災教育チャレンジプラン実行委員をはじめ、様々なご協力をいただいた講師の方々や団体・組織の方々に改めて御礼申し上げます。

避難所学習から育む、地震に強い街づくり ～チャレンジプラン2006 報告書～

発行日 平成19年2月17日

発行 三浦市教育委員会

〒238-0235 三浦市城山町6-9 電話 046-882-1111

印刷 アマノ印刷

〒238-0221 三浦市三崎町六合303-1 電話 046-882-5555

この冊子は三浦市教育委員会が応募した、支援事業「防災教育チャレンジプラン2006」の活動により制作したものです。

防災教育
チャレンジプラン

